

シンプルな暮らしからほんとうに大切なモノが見えてくる

7日間

フィリピンカオハガン島 「何もなくて豊かな島」

「自然と共にある暮らし」から学ぶスタディツアー

2018年春期ツアー 出発日:2/22発・3/1発・3/8発



島の家族と
「自然と共にある暮らし」体験



自他との対話から学びを深める

島の子ともて交流!



島に住む旅の案内人たち

島のオーナー、崎山克彦。そして、島の男性と結婚して島で子育てをしている日本人女性2人が皆さんの旅をご案内いたします。



2017年夏参加者の声

ほとんどの人が1人で参加したのにも関わらず、すぐに打ち解けることができ、最高のメンバーで最高の思い出が創れたと思う。

M・Sさん

言葉はあまり通じなくてもコミュニケーションがとれた。

K・Oさん

島の人たちは、決して便利な暮らしでなくとも、あるものを皆で分け合い、協力して生活して、東京よりも皆笑顔で過ごしていることに感動しました。

Y・Mさん

日本でも「自然や食べ物に対するありがたみを感じるべき」であるという事は理解しているつもりでしたが、自然・資源に敬意を払う島の人々の生活の中で、その本当の意味を痛感しました。

M・Kさん

カオハガン島は人間としての原点を見つめ直させてくれる場所だった。カネやモノでは測れない、けれども、明確な「豊かさ」があった。

A・Nさん

またカオハガンに、「ただいま!」と言って帰りたい。

M・Kさん

名古屋大学 農学部3年生(参加当時) A・Mさん
この島の人たちはみんなフレンドリーで優しく、あいさつをすれば必ず返してくれるし、むしろこちらから話しかけてくれました。子どもたちに至っては、名前を呼びながら駆け寄ってきてくれて、自分が受け入れられている感じがしてとても温かい気持ちになりました。
また、この島は人とのつながりがとても深く、島全体が家族という感じでした。家に自分の子じゃない子がいても温かく迎え入れて、ご飯をあげてしまうくらいだし、小さい子が遊んでいれば、その子を周りの大人や年上の子どもが見守ってあげていて、今の日本ではあまり見られない光景で、「ああ、こういう人とのつながりを大切にしたいなぁ」と思いました。カオハガン島で過ごした5日間は本当に濃厚で充実した5日間でした。「何かにならなきゃ」、「何か社会に役に立つことをしなきゃ」、「社会の一員としてふさわしい人間にならなきゃ」などと考えながら勉学に励み、バイトをし、ために息抜きとして友達と遊ぶというような生活をしてきた僕にとって、このツアーで得た経験は、かけがいのないものになりました。この島での生活を通して、「自分は自分のままでいい」「自分そのものを受け入れてくれる人がきっといる」、そう思えるようになりました。また、この島のとても豊かできれいな自然を目で見て、肌で感じて、この自然を守っていきたくとも思いました。このツアーで得たものを忘れず、自分の将来へと活かしていきたいと思えます。